

基底の変換

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L30(2022-07-27 Wed)

最終更新: Time-stamp: "2022-07-27 Wed 07:55 JST hig"

今日の目標

- 1つのベクトルを, 2組の基底でそれぞれ1次結合として書いたときの係数を, 互いに変換できる



L29-Q1

Quiz 解答:1 次独立・1 次従属

- ① 1 次独立
- ② 1 次従属
- ③ 1 次独立
- ④ 1 次従属
- ⑤ 1 次従属
- ⑥ 1 次従属

L29-Q2

Quiz 解答: 基底

- ① 生成しない
- ② 生成しない, 1 次従属
- ③ 基底
- ④ 生成しない, 1 次従属
- ⑤ 1 次従属
- ⑥ 1 次従属

ここまで来たよ

29 5.3 基底と次元|第5章 ベクトル空間

30 基底の変換

- ◆行列式の余因子展開|4. 行列式の展開
- 基底の変換
- ベクトル・マトリクス・テンソル

◆行列式の余因子展開

定理 (3-4-1 余因子展開 加藤 線形代数 p.125)

$A = [a_{ij}]$: n 次の正方行列

\tilde{a}_{ij} : A の (i, j) 余因子 のとき,

- $\forall i \quad \det(A) = \sum_{\ell=1}^n a_{i\ell} \tilde{a}_{i\ell}$. (i 行目における余因子展開)
- $\forall j \quad \det(A) = \sum_{\ell=1}^n a_{\ell j} \tilde{a}_{\ell j}$. (j 列目における余因子展開)

(i, j) 小行列式にかけられる符号 = (i, j) 余因子に含まれる符号 $\begin{bmatrix} + & - & + & - \\ - & + & - & + \\ + & - & + & - \\ - & + & - & + \end{bmatrix}$

どこかの 1 行, またはどこかの列を選んで展開する. n 項の和になる.

第 3 行についての展開 (\cdot , \bullet はつめて, $n-1$ 次の行列式を計算)

$$\begin{vmatrix} 11 & 12 & 13 & 14 \\ 21 & 22 & 23 & 24 \\ 31 & 32 & 33 & 34 \\ 41 & 42 & 43 & 44 \end{vmatrix} = +31 \begin{vmatrix} \cdot & 12 & 13 & 14 \\ \bullet & 22 & 23 & 24 \\ \cdot & 42 & 43 & 44 \end{vmatrix} - 32 \begin{vmatrix} 11 & \cdot & 13 & 14 \\ 21 & \cdot & 23 & 24 \\ 31 & \cdot & 43 & 44 \end{vmatrix} + 33 \begin{vmatrix} 11 & 12 & \cdot & 14 \\ 21 & 22 & \cdot & 24 \\ 31 & 32 & \cdot & 44 \end{vmatrix} - 34 \begin{vmatrix} 11 & 12 & 13 & \cdot \\ 21 & 22 & 23 & \cdot \\ 31 & 32 & 43 & \bullet \end{vmatrix}$$

第 2 列についての展開

$$\begin{vmatrix} 11 & 12 & 13 & 14 \\ 21 & 22 & 23 & 24 \\ 31 & 32 & 33 & 34 \\ 41 & 42 & 43 & 44 \end{vmatrix} = -12 \begin{vmatrix} \cdot & \bullet & \cdot & \cdot \\ 21 & \cdot & 23 & 24 \\ 31 & \cdot & 33 & 34 \\ 41 & \cdot & 43 & 44 \end{vmatrix} + 22 \begin{vmatrix} 11 & \cdot & 13 & 14 \\ 31 & \bullet & 33 & 34 \\ 41 & \cdot & 43 & 44 \end{vmatrix} - 32 \begin{vmatrix} 11 & \cdot & 13 & 14 \\ 21 & \cdot & 23 & 24 \\ 41 & \cdot & 43 & 44 \end{vmatrix} + 42 \begin{vmatrix} 11 & \cdot & 13 & 14 \\ 21 & \cdot & 23 & 24 \\ 31 & \cdot & 33 & 34 \\ \cdot & \bullet & \cdot & \cdot \end{vmatrix}$$

ここまで来たよ

29 5.3 基底と次元|第5章 ベクトル空間

30 基底の変換

- ◆行列式の余因子展開|4. 行列式の展開
- 基底の変換
- ベクトル・マトリクス・テンソル

ベクトルの成分と標準基底の1次結合

\mathbb{R}^2 の標準基底 $\{e_1, e_2\}$, $e_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$, $e_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$.

ベクトル $x = \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix} = ae_1 + be_2 \in \mathbb{R}^2$.

ベクトルの成分 = 標準基底の1次結合で書いたときの係数

他の基底の1次結合の係数はどういう意味?

L30-Q1

TA Prob and Sol: 基底の変換

\mathbb{R}^2 の 2 組の基底 $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2\}, \{\mathbf{v}'_1, \mathbf{v}'_2\}$ を考える. ただし,

$$\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}'_1 = 2\mathbf{v}_1 + 3\mathbf{v}_2, \mathbf{v}'_2 = 7\mathbf{v}_1 + 5\mathbf{v}_2$$

である.

ベクトル $\mathbf{w} = 2\mathbf{v}_1 + 4\mathbf{v}_2$ を $\mathbf{w} = a'_1\mathbf{v}'_1 + a'_2\mathbf{v}'_2$ と書くときの係数 $a'_1, a'_2 \in \mathbb{R}$ を求めよう.

略解

$$\mathbf{w} = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \end{bmatrix} = a'_1 \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix} + a'_2 \begin{bmatrix} 7 \\ 5 \end{bmatrix}$$

を a'_i について解けばよい.

$$\begin{bmatrix} 2 & 7 \\ 3 & 5 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a'_1 \\ a'_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \end{bmatrix}$$

と書けるので、両辺に左から逆行列 $\begin{bmatrix} 2 & 7 \\ 3 & 5 \end{bmatrix}^{-1}$ をかけて、

$$\begin{bmatrix} a'_1 \\ a'_2 \end{bmatrix} = \frac{1}{2 \cdot 5 - 7 \cdot 3} \begin{bmatrix} 5 & -7 \\ -3 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \end{bmatrix} = \frac{1}{-11} \begin{bmatrix} -18 \\ 2 \end{bmatrix}.$$

mobius 5.4.10

ここで現れた行列 $P = \begin{bmatrix} 2 & 7 \\ 3 & 5 \end{bmatrix}$ を, $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2\}$ から $\{\mathbf{v}'_1, \mathbf{v}'_2\}$ への基底変換行列
という. 加藤 線形代数 p.230 線形代数☆演習 II(2022)L??

基底変換行列

この科目内では、問題を解くのに下のことを使うのはやめておき、上のように素直に連立方程式を解こう。

実は、

$$[\mathbf{v}'_1 \ \mathbf{v}'_2] = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2]P$$

という関係も成立する。

$$\mathbf{w} = [\mathbf{v}'_1 \ \mathbf{v}'_2] \begin{bmatrix} a'_1 \\ a'_2 \end{bmatrix} = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2]PP^{-1} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$

と書くと、

$$\begin{bmatrix} a'_1 \\ a'_2 \end{bmatrix} = P^{-1} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$

となったことも納得いく。

基底のベクトルを結ぶ行列と、成分を結ぶ行列は、互いに「逆(行列)」

L30-Q2

Quiz(基底の変換)

\mathbb{R}^2 の2組の基底 $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2\}, \{\mathbf{v}'_1, \mathbf{v}'_2\}$ を考える. ただし,

$$\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}'_1 = \frac{1}{\sqrt{2}}\mathbf{v}_1 + \frac{1}{\sqrt{2}}\mathbf{v}_2, \mathbf{v}'_2 = -\frac{1}{\sqrt{2}}\mathbf{v}_1 + \frac{1}{\sqrt{2}}\mathbf{v}_2,$$

である.

ベクトル $\mathbf{w} = \mathbf{v}_1 + \mathbf{v}_2$ を $\mathbf{w} = a'_1\mathbf{v}'_1 + a'_2\mathbf{v}'_2$ と書くときの係数 $a'_1, a'_2 \in \mathbb{R}$ を求めよう.

基底の1次結合で書いたときの係数 = その基底で別の座標軸を定めたときのベクトルの成分

$\{v_1, v_2\}$ 水平鉛直の座標軸

$\{v'_1, v'_2\}$ 斜面に平行垂直な座標軸

高校物理, 物理と微分方程式

L30-Q3

Quiz(基底の変換)

\mathbb{R}^2 の2組の基底 $\{\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2\}, \{\mathbf{v}'_1, \mathbf{v}'_2\}$ を考える. ただし,

$$\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}'_1 = 100\mathbf{v}_1, \mathbf{v}'_2 = \frac{1}{10}\mathbf{v}_2$$

である.

ベクトル $\mathbf{w} = a_1\mathbf{v}_1 + a_2\mathbf{v}_2$ を $\mathbf{w} = a'_1\mathbf{v}'_1 + a'_2\mathbf{v}'_2$ と書くときの係数 $a'_i \in \mathbb{R}$ を a_i で表そう.

座標軸の「1単位」が変わったので、「係数」も変わっている.

定規が cm から m, mm に変わったので, 目盛から読み取った値も変わっている.


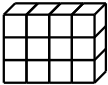
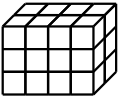
ここまで来たよ

29 5.3 基底と次元|第5章 ベクトル空間

30 基底の変換

- ◆行列式の余因子展開|4. 行列式の展開
- 基底の変換
- ベクトル・マトリクス・テンソル

ベクトル・行列・テンソル

$\boldsymbol{x} = [x_i]$ 3次元縦ベクトル	$A = [a_{ij}]$ 3×4 行列	$T = [T_{ijk}]$ 3階の3×4×2テンソル	$T = [T_{ijkh}]$ 4階の3×4×2×10テンソル
			?
ベクトル (vector) ‘行くもの’ 例: 部屋の明暗の時間変化データ. 3=時間の長さ.	行列 (matrix) ‘母体’ ‘土台’ ‘母型’ ‘活字’ 白黒グレースケール画像. 縦横 3x4ドット.	テンソル (tensor) ‘張力’ RGB 画像	4階のテンソル RGB 動画

- 工学では, matrix といえば 縦横のあるもの, のイメージの方が強くなった
- ベクトルは 1 階のテンソル, 行列は 2 階のテンソル (まあ), 3 階以上は ぜんぶテンソル
- どれもプログラム上では (多次元) 配列 array で表現される.

一般相対性理論のアインシュタイン方程式

$g_{\mu\nu}$ 計量テンソル, $R_{\mu\nu}$ リッチテンソル, $T_{\mu\nu}$ エネルギー運動量テンソル

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}Rg_{\mu\nu} + \Lambda g_{\mu\nu} = \frac{8\pi G}{c^4}T_{\mu\nu}$$

今後使われる線形代数

- 1年後期
 - ▶ 線形代数及び演習 II より抽象的に, より広い適用範囲
 - ▶ 微積分及び演習 II 2変数関数 $y = f(x_1, x_2)$ の偏微分 $f_{12} = \frac{\partial^2 f}{\partial x_1 \partial x_2}$, テイラー展開, 置換積分
 - ▶ データ分析 表=行列に記録された数値データの扱い
- 2年前期
 - ▶ 数値計算法及び実習 (の一部) 行列のアルゴリズムを自分でプログラムとして書こう
- 2年後期
 - ▶ 多変量解析及び演習 'ベクトルの確率', 'その標本である行列'
- 3年前期
 - ▶ 機械学習 I, II ニューラルネットワークのテンソルによる表現
- 3年後期
 - ▶ 微分幾何入門曲面の曲がり具合を表現するリーマン曲率 (4階) テンソル R_{kji}^h
- 大学院入試
 - ▶ 線形代数は必須科目

定期試験期間に行う任意参加試験

- 2022-08-03 水 9:15-10:15, 1-107
- 定期試験ではないので、遅延や感染による配慮や追試はありません

出題計画

- Trial L01-L15 の出題計画をあわせたもの
- すべて持込不可
- 成績評価方法のお知らせ (2022-06-16) に始まる Teams 一般 ch のスレッドを参照.

他の科目の定期試験と、この任意参加試験に共通する注意

- 学生証必須.
- スマホ使用不可 (時計としても).
- (ふだん座席指定のない科目でも) 個人別座席指定 (されていることがあります).
- 遅刻は 20 分まで.

他の科目の定期試験にのみ該当する注意

- ふだんと教室が違うことがあります. ポータル My 定期試験時間割で確認.
- 考慮される理由 (履修要項) で欠席した場合, 証明文書を取得して直ちに教務課に連絡. 認められれば 8 月下旬に対面追試.